

大阪支部は大阪支部だけのもの…

—大阪支部 50 周年記念に寄せて—

滋賀支部 澤 豊治

もう 30 年も前になります。同僚の組合員の先輩に「澤君、学校は校長が代わっても、なあ～んも、変わらんけど、体育の先生が変わったら学校は大きい、変わるぞ。体育同志会ちゅう研究サークルがあるで、そこ行って勉強してこい！」と勧められ参加した京都大会。今まで見たことも聞いたこともないような体育に触れ、分科会で話されていた中身は当時の私にはチンプンカンプンでしたが直感的に「これや！」と刺激を受け、同僚で当時新採だった漆山と一旦途絶えた滋賀支部を再建するため旗上げの準備に取りかかりました。



黒井さんに「何から始めたら、ええですか？」と尋ねたところ「民舞や。民舞教室やれ。講師は大阪で用意したるから人集めい！」と言われ民舞教室を開き当日、黒井さんが前田さんや講師の先生方と一緒に来てくださったことを覚えています。その後も水泳教室で中川さんや佐々木さん、また安武さんにことある毎に来ていただきお世話になりながら、ここまでやってきました。また、直接ではありませんがときに榊原さんや、上野山さんの健康教育の授業実践を支部で学習もしました。私たちにとっては常に頼れる兄貴的な存在が、大阪支部でした。

全国大会に毎回出る圧倒的な実践レポートの数と、常にその場に安住せず食欲とも思える探究心、研究心はどこから来るのか不思議で仕方ありませんでした。普通組織が大きくなるとレポート数は増えたとしてもあれだけ先鋭的な研究は鈍ってしまうはずですが、でも、お付き合いをしているうちにそのわけが分かってきました。それは、7つのブロックに分かれそれぞれのブロックが自立して活動されていること。それをまとめる支部研究大会がきちんと位置付いていること。早くから課題別研究プロジェクトを立ち上げ、課題を明確にしながら研究を進めていること。そして何より組織を支える機関会議をきちんと位置づけ機能させていることだと思います。私たちも常に“広げることと深めること”を両輪にするためには、この大阪支部に見習わなければと思っています。

しかし、残念なことが一つあります。それは、なぜ大阪支部は、中、高の先生が少ないのでしょうか？今、少なくとも中学校の体育現場では、授業がうまくいかなかったり、体育教師に

求められる力量（集団を動かす、生徒指導、部活）に悩んだり疑問を持つ若い体育教師は増えています。このような仲間にアプローチはできないのでしょうか。滋賀では、中、高保健体育教員志望者を集め教員採用試験対策講座を開いたり、保健体育の臨時教員や若い保健体育教員を集めて、体育の授業だけにかかわらず悩みや愚痴を話せる会を開催し毎年数名ずつですが着実に会員を増やしています。是非、大阪でも中、高の先生を増やす取り組みにも力を入れてください。

最後に、大阪支部が大阪の会員の皆さんのためにあるのはもちろんのことですが、私たちからすれば、大阪支部は大阪支部だけのものではありません。いつも関近の仲間を引っ張り、ときに支えていただけるリーダーだと思っています。そんな目で見ている同志会の仲間もいるということを知っていただければ嬉しいです。これからもともに頑張っていきましょう。どうか宜しく。